

## リスクコミュニケーション活動の検証の取組みへの意見集約(2007.5.24)

## 分担委員からの回答のまとめ

関澤 純

5月18日から24日の間に「リスクコミュニケーションの検証」を分担いただく専門委員(蒲生、中村、近藤、西片各専門委員)に(1)検証の対象となる取組と手法、(2)検証の視点についてご意見を伺った結果を以下のとおり、取りまとめた。

(I) 検証の対象として選ぶリスクコミュニケーション活動：優先度の高かった順に掲げてある。

- (1) 意見交換会、地域指導者育成講座など
- (2) 食の安全ダイヤルへの回答、食品安全モニターの意見の活用と制約
- (3) e-マガジン、Q&A、食品安全、ファクトシート、キッズボックスなどわかりやすい情報の提供の工夫と改善方向
- (4) インターネットホームページのデザインとわかりやすさ、案内機能など
- (5) 関連機関や団体との連携、協議：次回以降の検討で扱える！
- (5) リスク評価プロセスと評価結果の説明：次回以降の検討で扱える！

(II) 検証の視点で重要と考える事柄：委員の意見は\*1~3で個人を区別してある。

\*1, 2 意見交換会を実施する目的を明確にし、目的達成のための手段として採用した意見交換会スタイル(ア.講演、イ.パネルディスカッション、ウ.円卓会議、エ.サイエンスカフェ、オ.コンセンサス会議、カ.シナリオワークショップ、キ.フォーカスグループインタビュー、ク.その他)が妥当であったかを評価することが必要である。

意見交換会を実施する目的はほぼ座長指摘の通りである。緊急時対応(パニック鎮静化)、認知度向上、(政策決定につなげるための)意見聴取・協議、(リスク管理機関等の)信頼回復、食品安全行政パートナーの形成、およびそれらを「誰に」実施するか。

具体的な方法としては、

1. 三府省が実施する意見交換会の目的(上記 ~ )を明確化。(専門調査会は目的の決定に際して三府省の協議に加わるかもしくは決定内容を意見交換会実施前に報告を受ける)
2. 目的達成のために有効と思われる手法(ア~キ)を他の要因(コスト・タイミング等)を勘案して決定する。
3. 意見交換会に参加する人に会に参加する目的(上記 ~ )をヒアリング。(参加申込書にアンケートを盛り込む)属性も記入してもらおう。
4. 意見交換会終了時のアンケートに1)参加申込書に記入した目的、参加者の属性、2)理解度、3)満足度、4)参加する前と後での意識変容、について質問する。自由記述欄を設けて、参加した意見交換会への不満点、今後の改善点についてヒアリングする。また意見交換会の目的によって、5)(リスク管理機関等への)信頼度、を質問する。アンケートの目的を明確にしてこれまで実施したアンケート結果から反省に立って不満の意見を生かす。
5. 意見交換会実施直後だけでなく中長期の行動・態度変容を図るために、終了時アンケートに同意を得た人に連絡先(メールアドレス)を記入してもらい継続的变化をアンケート調査する(意見交換会の効果測定にはそのまま使うことはできないが)。  
連絡先(メールアドレス)を記入した人には食品安全委員会メールマガジン等の情報提供を

行い、食品安全行政のパートナーとして育成する。パートナーに、地域指導者 会議の参加者、食品安全モニターも加えメールマガジンという一方向の情報提供だけでなくメーリングリストを導入して双方向性を高め、参加者からの提案を促進し、パートナーとしての意識を高める。ここで特定の人の意見を聞いていることにならないかという考えもあるが、その点を含みながらも声を聞いてゆくことが大切であろう。

4.の結果を分析して、1.2.で予想したこととズレがある場合はその原因を探る。4.の分析結果を参考にコストパフォーマンスを合わせて検討し、今後の意見交換会計画を立案する(1.2.へ)。

- \*2 ホームページの注目度、効果、浸透について把握検証することはリスクミだけでなく一般にきわめて困難とされている。ホームページ視聴率はひとつの指標だが理解度までは計れない。伝えたことがどう受け止められているかを把握することが、次の活動を生きたものにするポイントと考える。
- \*3 ・ 一方的な情報提供ではなく、情報開示や状況説明の際に、送り手(関係府省、食品安全委員会など)と受け手(消費者、生産者、流通関連業者など)の双方向で情報共有や理解を深めるための議論・施策が効果的になされたか。  
・ ごく普通の消費者、一般市民に向けて、わかりやすい説明が的確に行われたか。

(III) 準備の進め方と当日審議のあり方について：

- \*1 座長提案のように各担当が与えられた分担内容をレジュメで用意し、審議当日に発表し意見交換すると良い。

(IV) 事務局への依頼内容について：

- \*1 三府省との連携、調整業務

(V) その他の点：

- \*2 検証の意味は、リスクコミュニケーション活動としてこれまで取り組んできたことでどれだけ国民に受け入れられ正しい情報として伝えきれているかの効果を公平に評価することと考えて良いのであろうか？例えばこれまで実施してきた意見交換会のアンケートで“不満”の声を次の交換会にどう生かしたか、いかした結果はどう評価(次のアンケートに)されているかなどを見ていくことが重要ではないか？  
安全ダイヤルにはどういう方が電話をしてくるのだろうか？食品安全委員会そのものの浸透度をチェックするために、電話してきた方に、“どこでこの番号を知ったか”と聞いてみるのも一案ではないだろうか。また、聞いてこられるご意見、問い合わせが一般に公表されているのに、知らない、という内容であれば、その情報が浸透していない、ということになる。
- \*3 会議の前日遅くに資料やレジュメが送られてくることが多く、事前に読んだり、検討する時間がほとんどとれないので、もう少し前倒しで資料を準備されるよう要望する。